

【授業科目】看護技術論Ⅰ（基礎援助技術）

Fundamental Nursing Art Practice I

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
久留島実姫、草野 純子 中村いお美、林 香純	1年次前期	必修	2	30	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要/本科目では、看護の対象となる人々が心身ともに健康な生活を送ることができるよう援助するために必要な看護技術を学習する。授業では、看護技術のエビデンス、安全性、安楽性を意識しながら、よりよい看護技術を想像し創造する姿勢を養う。授業形式は、講義だけでなく演習を通して知識と実践が統合できるよう展開する。なお、毎時間グループディスカッションを行う。 課題に対するフィードバック方法/①提出された課題にコメントをつけて返却する。②講義時に全体に対してコメントを口頭で述べる。③全体に対するコメントをまとめたものを提示する。①②③いずれかの方法で行う。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を対象に用いられる看護技術の特性について述べることができる。 2. 看護技術を提供する際に必要となる観察や人間関係構築のためのコミュニケーションができる。 3. 安全性・安楽性・自立/自律性と効率性を考慮した看護技術を用いて援助を実施できる。 							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>【事前学習】第2回～15回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 該当部分の教科書を読む。 2. Teamsに提示された事前課題、クイズに取り組み、期限内に提出する。 3. 必要時、該当部分の動画を視聴する、又は実習室で自己練習を実施する。 <p>【事後課題】第1回～15回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Teamsに提示された事後課題、振り返りに取りくみ、期限内に提出する。 2. 各自で講義内容を整理する。 3. 必要時、実習室で自己練習を実施する。 <p>【必要な学習時間】 事前課題+事後課題=4時間/1回</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 ガイダンス/看護技術とは（講義） 第2回 人間の生活行動と看護技術（講義） 第3回 患者と自分を感染から守る技術【感染予防/手指衛生】（講義） 第4回 患者と自分を感染から守る技術【スタンダードプリコーション】（演習） 第5回 人間にとっての環境と看護技術（講義） 第6回 療養環境を整える技術①【ベッドメイキング】（演習） 第7回 療養環境を整える技術②【ベッドメイキング】（演習） 第8回 患者を観察するための看護技術（講義） 第9回 患者との関係を構築するためのコミュニケーション技術（講義） 第10回 患者にとって安楽な体位を整える看護技術（演習） 第11回 患者の体位を変える看護技術（演習） 第12回 臥床患者のシーツを交換する技術（演習） 第13回 学習成果の発表準備（演習） 第14回 学習成果の発表（演習） 第15回 まとめ（講義） 						<ol style="list-style-type: none"> 第1回 久留島 第2回 久留島 第3回 久留島 第4回 久留島・草野・中村・林 第5回 久留島 第6回、7回 久留島・草野・中村・林 第8回 久留島 第9回 久留島 第10回～14回 久留島・草野・中村・林 第15回 久留島 	
評価方法 評価基準	定期試験：50% 課題・授業への参加：50%（事前課題15%、学習成果の発表10%、事後課題25%）							
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる 『基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ』 医学書院 2. 任 和子 『基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ』 医学書院 3. 任和子他編 『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』 医学書院 4. 池上敬一著 『急変させない患者観察テクニック』 羊土社 			参考書等	適宜紹介			
学生への助言等	授業は課題の実施を前提に行います。みなさんの効果的な学修活動のために必ず取り組んでください。また、本科目での資料は、原則 Teams に Up しますので、必ず各自でダウンロードまたはプリントアウトをして授業に臨んでください。みなさんが自立的に学修されることを期待しています。							